

あなたが創るくまもと復興ミーティング'17夏

日時／7月22日(土) 午後1時～4時
 場所／市役所別館自転車駐車場8階 会議室

無料

前回、整理した課題から見えた「地域をこんなふうに変えたい、これをやればこう変わる!」、そんな皆さんで実際にやっていきたい取り組みについて、さらに具体的な意見を出し合います。
 前回参加した方も、そうでない方も、地域で取り組んでみたいと日頃考えているアイデアを出し合って、実現してみませんか。

（前回に引き続き）

テーマ 地域力を高める取り組み

〔(案)地域のつながり・交流のための場づくり、若い世代の参画〕

申込み

住所、氏名、年齢、電話番号および復興ミーティング参加希望の旨を書いて、郵送かファクス(096-324-1713)または電子メール(fukkou@city.kumamoto.lg.jp)で〒860-8601復興総室へ

(復興総室 ☎096-328-2971)

市長と直接、意見交換をしませんか!

市長が地域に出かけ、「地域まちづくり」をテーマに話をし、まちづくりへの提案や意見をお聴きします。



「市長とドンドン語ろう!」 in 花園(7月開催分)参加者募集!

日時 7月24日(月) 午後7時～9時
 場所 花園まちづくりセンター 花園公民館ホール
 対象 城西・花園・池田の各校区に住むか通勤・通学する方
 定員 100人(先着順)

「市長とドンドン語ろう!」 in 飽田(8月開催分)参加者募集!

日時 8月10日(木) 午後7時～9時
 場所 飽田まちづくりセンター 飽田公民館多目的ホール
 対象 飽田東・飽田南・飽田西の各校区に住むか通勤・通学する方
 定員 60人(先着順)

【各回共通】 申込み 7月5日から開催地区(花園・飽田)、住所、氏名、電話番号、校区名を電話(☎096-334-1500)かファクス(096-370-2002)またはホームページ(higomaru-call.jp)でひごまるコールへ

※手話通訳・要約筆記も行います。

(広聴課 ☎096-328-2075)

ドンドン市長と語ろう!

2月7日に「市長とドンドン語ろう防災編 in北区」として、防災について地域の皆さんと語りました。



災害時の広報充実を

市民に対する広報担当者を配置してほしいです。植木地域は濃密な自治会運営を行っているので、地域の連携はできています。熊本地震で、防災行政無線が一度も使用されなかったことを非常に残念に思っています。他市町村では詳しい情報がアナウンスされていたところもあります。本市でも、広報担当者が設定されていれば、きちんと情報提供できたのではないのでしょうか。



避難所のルールづくりを

私を含め高校生ボランティアが北部総合出張所(現北部まちづくりセンター)で物資の配布を行っていましたが、物資を1人にどれだけ配布するかなどのルールが決まっていなかったため、不平等に配布していました。一緒に運営していた人の中からも、しっかりとしたルールを決めてほしいとの意見が挙がったり、必要以上に物資を受け取る方もいて、学生が中心となって運営するには難しいものがありました。まずは行政が、避難所のルールに関して基本的な方針をつくってほしいです。その後、避難所に応じた対応を地域で協議していけばいいのではないかと思います。



合併した町は、合併前に町単位で防災行政無線が整備されていました。町ごとに運用していた無線が、今回活用できなかった点を反省しています。今後は、災害時に重要な情報が正確に伝わるよう、災害時などの広報体制について、担当者の配置も含めて検討していきます。



熊本市長 大西一史

ボランティアの立場からは「なかなか強く言えない」というような部分があると思います。配布する物資が足りない状況で、どこにどう配るか現場は混乱していました。この状況は、また起こる可能性が十分にあります。熊本地震の教訓も踏まえ、現在、訓練をしながら基本方針を考えているところです。

また、高齢者の方を優先するなど、地域の方が現場で判断する自由度も必要だと思います。発災直後に大きな問題となる避難所運営の基本方針について、しっかり検討していきたいと思っています。

地域住民に寄り添う自治体職員の育成を

避難所担当の職員が積極的ではなく、何をしたらよいか分からない様子でした。理由としては、自らの居住地や業務場所などと全く関係のない避難所に配置されたこと、また、慣れる間もなく短期間ごとの配置であったことなどが挙げられると思います。これは、人員配置に問題があるように思います。また、自治体職員として地域住民に寄り添う意識が低いのではないのでしょうか。



現在、課題などの洗い出しを行っており、マニュアル作りを進めています。職員の居住地や業務を考慮して人員配置を行うことは重要です。職員も被災したうえ、自宅にも帰れない状態でそれぞれの運営を行いますので、職員の健康管理や体制、また、それぞれの役割のあり方などが非常に重要になってきます。そういったことを含め、今後は地域住民に寄り添った職員の育成に努めていきたいと思っています。

※やりとりは一部を抜粋したものです。 ※内容は2月7日時点のものです。